



2002年にブログを立ち上げる。毎年参加している世界经济フォーラム・ダボス会議報告など読み応えがある内容が満載で、中でも若者との活発な交流が目を引く。

08年10月のブログで、米国では国内の教育困難地域に一流大学の卒業生を派遣する「ティーチ・フォー・アメリカ」といった非営利団体が、大学生が卒業後最初につきたい仕事トップ10に入っているという話を書きました。すると10年夏、松田悠介君という若者が懸命に「ティーチ・フォー・ジャパ」をつくらうとしているのをツイッターで見つけました。これは応援しなければとすぐに松田君に連絡を取り、話を聞きました。彼は小さいころにいじめられていました。中高で体を鍛えて大学



若者のボランティアなども積極的に支援している (福島県川俣町の古川道郎町長④と)

ブログ立ち上げ、学生らと活発に交流

途上国支援の思い、ハッピーかけ実現後押し

「若者、内向きではない」挑戦を応援

ために、教職免許を取ったばかりの学生を「フェロー(教師)」として派遣する活動をしています。とてもない目標ですが、何事も始める勇気と行動、それを社会が応援することが大事なのです。ブログを見て訪ねてくる学生も多い。08年12月、早稲田

その中の一人、税所篤快君は首都ダッカの一流講師による授業を映像に収め、村の高校生に学ばせる仕組みを考え出しました。これで村では絶対に無理だといわれている同国最高峰のダッカ大学合格を目指すのです。大学を休学してバン格拉デシュに渡り、ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行創始者のムハマド・ユヌス博士に飛び込みで説明したら、「DO IT! DO IT! GO AHEAD!」と言われる、一気に実現に向けて動き出しました。現地の

大学生と協力して準備に1年かけ、約30人を教える態勢を整え、10年6月に授業開始。同年11月のダッカ大学の受験に臨みました。いざ発表を迎えると「全員落ちたらどうしよう」と気が気じゃありませんでした。税所君からの最初のメール「1人合格しました!」は、本当にうれしかった。そのあと何人かが他の一流大学に合格しました。彼は高校時代、落ちこぼれで、担任に「二浪して三流大学に行け」と言われて奮奮し、予備校のDVD授業の3年分を3カ月で学んで早大教育学部に合格。そ

「最近の若者は内向きになった」という声を聞きますが、そうは思いません。何かというと「できない理由」を口にする大人より、よっぽど事の本質を嗅ぎ取っています。松田君や税所君の発想、行動に国境はありません。4月12日に行われる東京大学の入学式で、スピーチをする機会をいただきました。話す内容はまだ決めていませんが、「出る杭(くい)」になることを恐れず、「異質、異端、異論」といった多様性を武器に日本を変える力になってほしい。どんなに変わる世界で思う存分可能性を伸ばすのだ。そう伝えたいと思っています。(聞き手は編集委員 山田康昭)

「出る杭」が日本を変える ⑤

今回は漫談家の綾小路きみまろさん